

# 全佛通信

十月号  
発行所  
財団法人  
全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ本願寺内  
電話 03-37600  
振替東京三三〇〇  
発行人 栗本俊道  
編集者 別所弘因  
印刷所 ルンビニ社

## 全仏事務局新人事決定 会長に高階隴仙師

### 理事長に訓覇信雄師が推挙される

全仏役員改選並びに全仏規約一部改正等を審議する評議員会及び理事会は九月六日午前十時から東京築地本願寺第一控室において開催された。評議員会は午前十時から開かれ、九十五名の評議員が参集した。議題について熱心に協議した。

#### 議 題

- 一、会長及び副会長推戴の件
- 二、理事及び監事選出の件
- 三、財団法人全日本仏教会寄附行為一部変更の件
- 四、財団法人全日本仏教会昭和十八年度歳入歳出予算追加更正の件

議事は金剛理事長が議長に推挙され議長席につき、議案上提処理方法を語ったが、第一、二号議題については選衡委員の審議に一任となり、委員の数は七名とし、議長の指名により、太田淳昭、訓覇信雄、平林有高、金子弁浄、上野

加予算は百十五万円増額とする。及び全仏寄附行為第八章第三十三条の局長三名を文化局増設にともない四名とし、事務局に総務、組織、国際及び文化の各局を置くことを決定し正午に閉会となった。

#### 議 題

- 一、会長及び副会長推戴の件
- 二、理事長及び常務理事選出の件
- 三、財団法人全日本仏教会寄附行為一部変更の件
- 四、財団法人全日本仏教会昭和十八年度歳入歳出予算追加更正の件

まづ金剛第一師が議長席につき議案を上提し審議方法を語ったが議題の一、二については選衡委員の選衡によって決定すべき旨の動議があり、選衡委員の定数及び選出法については議長一任となり、議長から太田淳昭、訓覇信雄、岩野真雄、金子弁浄、金剛第一各師を指名し、万場一致の賛成を得て別室にて選衡委員会を開催し、その間理事会は一旦休憩を閉じた。

なお再会後、会長に高階隴仙師、副会長に藤井日静、中井竜瑞、羽浜了諦の各師を選出し、学識経験よりの理事に阿部竜伝、松本徳明、中山理々の各師、監事に長岡慶信、藤川博、荻原大豊の各師、理事長に訓覇信雄師を選出し万場賛成により決定した。なおここで評議員会再会のため一旦休憩し、再会後議長から常務理事の選出法を語ったが、前回選出の選衡委員五名に一任するの動議が出されて成立し、別室にて同委員会を開催し、

その結果次の各師が新常務理事に選出され決定を見た。即ち、金剛第一、太田淳昭、田丸道忍、訓覇信雄、小林大蔵、岩野真雄、金子弁浄、清田寂坦、平林有高、上野頼秀、来馬道断、二ノ宮清海、山本 杉、阿部龍伝、中山理々の十五師。(順不同敬称略)

また議題の三及び四については栗本局長より報告され夫々原案通り可決した。

なお最後に緊急提案の「鑑真和上逝世一千二百年記念籌備委員会」(在中国北京市)よりの招聘の件について上提され、本件を受諾することに決定し、代表団の人选等に関しては理事長及び事務局に一任することになった。署名委員は田丸道忍、岩野真雄両師。

出席理事は、金剛第一、岩野真雄、訓覇信雄、太田淳昭、小林大蔵、宮前鳳洲、芝原郷音、宮崎文輝、安藤寿雄、田丸道忍、二ノ宮清海、蒲池 繁、金子弁浄、平林有高、岡野正道、高橋隆天、末広愛邦の各理事。(順不同敬称略)

- 総務局長 阿部 龍伝
- 組織局長 二ノ宮清海
- 国際局長 中山 理々
- 文化局長 岩野 真雄
- 総務部長 伊東 堅純
- 組織部長 岩本 昭典
- 国際部長 柳 了堅
- 文化部長 別所 弘因

全仏理事会は九月廿七日午前九時四十五分から東京築地本願寺仏教学院室にて開催され、左の議題について慎重審議された。

#### 議 題

- 一、事務局総局人事に関する件

理事長開会宣言をなし、事務総長に麻布照海師を委嘱する旨報告をなし、全員の了承を得、次いで同師より挨拶があった。署名委員に金子弁浄、平林有高の両師が指名された。次いで全仏のあり方について論議が出され時局対応の能动性を持つか、現状のままで行く

か各理事より種々意見が開陳されたが、各師より全仏は現状のままでなく、あくまでも前向きで積極的でなくてはならない。そのためには事務局の下部人事を充実させ、局長には常務理事の中から選定したらどうかと云う意見が出され万場の賛同を得た。

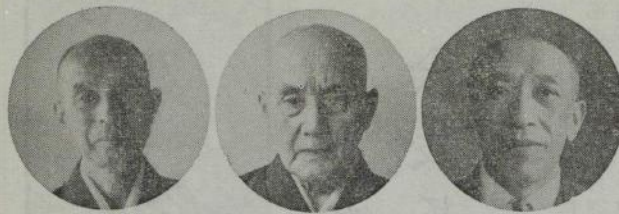
次いで一旦休憩に入り別室において田丸、平林、阿部、二ノ宮各理事と理事長、事務総長らが協議し、再会後次の各師が全仏事務局新人事として発表され全員の賛成を得た。

なお十月一日付で主事以下の人事が次のとおり発令となった。総務局主事福井清俊、森谷恵智子、組織局主事相馬広成、国際局主事鎌田良昭、文化局主事小瀬川亮晃、書記青柳嘉枝の各氏。

# 鑑真和上生誕の地へ 訪中日本仏教代表団 出発

## 金剛団長等仏教、文化人代表十五名

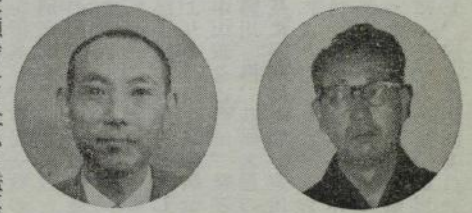
中華人民共和国北京の「鑑真和上逝世一千二百年記念準備委員会」(代表者趙樸初居士)では、十月に揚州、北京など各地で「鑑真和上逝世一千二百年」を記念して盛大な記念行事を行うが、特に揚州には奈良の唐招提寺を模した大寺院が建立されることになり、その緞入れ式に日本仏教代表団を招待することになった。同委員会の招待状は九月六日全仏に到着し



狭川明俊師 日本仏教代表団一行  
大西良慶師 本仏教代表団として中国へ赴くことに決した。  
団長 金剛秀一師 直ちに人選に着手し、金剛師を団長とする九名が、日



桜井栄章師 州の祝典の後、各地を約一ヶ月に  
細井友晋師 北京における十月一日の国慶節にも参加し、揚  
小野塚潤澄師 飛行機で北京經由揚州に向かい、向かい  
若林隆道師 九時二十七分田発の七航機便にて一路香港へ向



中濃篤師 九月十六日午後五時東京築地  
柳了堅師 錫、仏教を通じての中日兩國の親善増進につとめる。

本願寺にて全仏と鑑真和上奉賛会共催の歓迎会が盛大に開催され訓導理事長以下各宗管長、総長、役員など百五十名が出席し、夫々激励のことが寄せられたが、中国揚州に建立される寺院へ「鑑真和上座像」一鉢が贈られる旨の披露がなされ、万場の拍手をあびた。なお団旗(仏旗)は訓導理事長より金剛団長へ手渡され力強い団長の挨拶があり、清水谷恭順師(浅草寺貫主)の発声にて万才が三唱され午後七時すぎ会をもちた。なお中観会(会長山崎良順氏)から代表団に委託された日中平和のシンボルとして中国へ贈る「聖観世音菩薩像」一鉢(ブロンズ製)も同会山崎良順会長より金剛団長へ手渡された。

代表団の構成は次のとおり  
 団長 金剛秀一師 曹洞宗務総長  
 長老 大西良慶師 京都大本山清水寺貫主  
 長老 狭川明俊師 華嚴宗管長 東大寺貫主

団員 若林隆道師 浄土宗乗蓮寺住職  
 小野塚潤澄師 真言宗豊山派庶務部長  
 細井友晋師 日蓮宗、立本寺貫主  
 桜井栄章師 鑑真和上遺徳奉賛会事務総長  
 柳了堅師 全仏国際部事務局長  
 柳了堅師 全仏国際部事務局長  
 中濃篤師 日中仏教交流懇談会事務局局長  
 なおこれら仏教代表団と共に、「文化界代表団」の六代表も、同日仏代表と同機で出発した。文化界代表は次のとおり。  
 団長安藤更正氏(早大教授)、井上靖氏(作家、宮川寅雄氏(美術評論家)、佐木秋夫氏(宗教評論家)、長島健氏(早稲田高等学院教授)、長沢元夫氏(名城大学助教)以上。

代表団一行は二十七日香港へ到着し、金門ホテル投宿後翌日バスで羅湖の境界線へ向い、其処から列車で北京へ向うが、十月一日の国慶節に参列後は、各地で鑑真和上記念集会に出席し、十月十五日揚州における緞入れ式に出席することになっている。帰国は十月二十四日の予定。  
 なお代表団一行より九月廿九日全員無事北京へ到着した旨全仏へ電報があった。

全仏国際局では在米、南米の日本仏教各宗開教本部あてに便宜供与の方の依頼状を発送した。  
 なお訓導理事長は米、南米視察のち、ロンドン、パリ、ローマなど欧米各地を視察し、印度、香港經由で十一月十五日帰日する。  
 訓導理事長の渡航歓迎会は全仏と全青教の共催により同九日午前十一時から東京文京区大塚の真言宗豊山派宗務所講堂において開催される。

愛知県仏教(会長椎尾弁匠師)では、会員百名が十月八日正午に東京芝の大本山増上寺に立寄り、南ベトナム問題に対する十万人の嘆願署名簿を持参し、この事件の速やかなる解決を訴えた。一行はこれに先立って駐日南ベトナム大使館をはじめ内閣国会等を訪れ夫々要請文、抗議文等を提出したが、特に愛知県下寺院、信徒より、現在本國からの送金が絶たれている在日南ベトナム留学僧の、マンザク比丘(東洋大学大学院)、マンダラ比丘(駒沢大)に対し多額の救援金を送り、兩人を激励した。

海外日系人大会顧問に  
 全仏高階会長委嘱される  
 第四回海外日系人大会は来る十月廿三日から廿五日まで、海外日系人連絡協会の主催で、東京大手町産経会館ホールで開催されるが同大会顧問に全仏高階隨仙会長が委嘱された。

# 南ベトナム仏教徒迫害事件 (報告書)

## 一、事件の発端

昭和三十八年五月一日、南ベトナム中部の古都ユエ(順化)において仏教徒が歓迎の生誕祭の行事を行なおうとしたところ、南越政府はこの行事を一週間延期するよう命じ、更に一週間後の五月七日にはデイエン・ビエン・フー職勝記念日に当るのでこの行事を行うことを禁止した。この禁令に憤慨した仏教徒三千名が仏旗掲揚の禁止、行進の禁止、カトリック教徒との差別待遇等に抗議するデモを行い、警備の軍隊と衝突、死者七十九名、負傷者一七名、逮捕者百名を出すに至った。これをきっかけとして各地でこれに抗議する仏教徒のデモが陸続として起った。

## 二、事件の背景

今回の事件は突発的なものではなく、カトリックのゴ政権成立以來十年に亘って抑えられて来た仏教徒の不満が一挙に爆発したもので、具体的には次の理由があげられる。① 現政府がカトリックのゴ一家に支配され、カトリックでなければ政府や軍の要職につけない。② 仏教徒は非常な差別待遇をうけている。③ 米国からの援助物資がカトリック教会からのルートを通じて流れている。④ カトリック的法令が相次いで公布され仏教徒の不満が増大している。三、その後の経過  
五月十三日 全南越仏教徒代表がサイゴンで集会を開き、ゴ大統領に会見を求めるとを決議した。

十四日 大統領は都合で仏教徒代表に会見せず。

十五日 大統領との会見は行われたが、仏教徒側に満足すべきものではなかった。

十六日 仏教徒代表は記者会見にて、次の各項目をゴ大統領に対して要請した旨明らかにした。五項目の内容は次のとおり。

- (A) 仏旗掲揚禁止の撤廃、(B) カトリックとの平等待遇、(C) 仏教徒に対する逮捕の停止、(D) 仏教布教に対する自由と保障、(E) 犠牲者に対する賠償及ユエ事件の責任者処罰。

六月一日 ゴ大統領はユエ事件の責任者三名を更迭する措置をとった。

三日 ユエで二百名の僧侶がデモを起し警官隊と衝突し六十名以上が負傷した。ユエ戒厳令しかる。

四日 政府は仏教徒対策に対処するため、グエン・ゴック・トイ副大統領、グエン・ヴァン・ルオン内相、グエン・ディン・ツァン治安大臣で構成される内閣委員会を設置、一方仏教徒側は全ベトナムの宗派を統合した全国委員会を結成す。

五日、六日 仏教及政府の両委員会は会談を開き、政府側は問題解決に最善の努力をほらい、仏教徒に対する取締り措置を撤去し、仏教徒側は交渉期間中は抗議運動は行わないことで双方は一応の合意を見た。

七日 ゴ大統領はラジオ放送でユエ市民に対し、政府側にもおちどがあつた点を認め、事態の収拾を訴え仏教徒側の要求にやや譲歩した事を明らかにした。

八日 大統領義妹ニュー夫人は、政府及国民は本事件を利用している一部破壊分子を嚴重に監視し、政治的混乱を防がねばならない旨国民に呼びかけた。

(この様な政府側の譲歩により外部からのベトナムに加えて内部から政府を脅している当面の危機は一応回避出来たと見られていたところ、十一日に至って政府の弾圧政策に抗議して、テイッチ・クアン・ドク老師がガソリンによる焼身自殺を行うと云うショックな事件が起った。

十一日 テイッチ・クアン・ドク師がサイゴンの中心街でガソリンによる焼身自殺をする。

十二日 この殉教僧に祈りを捧げるため仏教徒側は政府の意向を無視して寺院に仏旗を掲揚したので、政府はこれら寺院の閉鎖を行い、事態は再度悪化した。

十四日 及十五日、険悪な事態に狼狽した政府側は、両日午前、午後に亘り仏教徒側との会談を続行した。政府側出席者は、グエン・ゴック・トイ副大統領、グエン・ヴァン・ルオン内相、グエン・ディン・ツァン治安大臣、仏教徒側は、テイッチ・クアン・ディン・ミン中部仏教副会長を長とし、テイック・ティエン・ホア南越僧侶会長、テイック・タム・チャウ仏教擁護連盟首席外二書記が夫々出席した。

十六日 午前中故クアン・ドク師の葬儀に参加せんとした仏教徒は、政府がその参列者を千五百名と制限したことに不満を持ち警官隊と衝突、三十名以上の負傷者を出し、遂に葬儀は延期されるに至った。

政府、仏教両者間の会談は漸く午前十一時三十分に至って妥決し、次のような共同コミニユエが発表された。

- ① 国旗及仏旗 国旗は民族のシンボルとして尊重されねばならないが、仏教徒は仏教祭日に当り、場所によつて国旗と共に或は単独に仏旗を掲揚する事が出来る。
- ② 第十号刺令(一九五〇年当時のバオダイ帝によつて定められたもので、いわば団体等規則令とも云うべき法令で、カトリック団体は対象から除外されているので、事実上は仏教徒に対する差別待遇を規定していると考えられる)については遅くとも一九六四年初頭迄に改正する。政府は改正迄の期間、同刺令の適用を弛める。
- ③ 仏教徒の逮捕者問題 政府は仏教徒の苦情調査委員会を設け、本事件に関連して逮捕されたものに対し寛大な措置をとる。
- ④ 伝道の自由 宗教行事は寺院内で行われる限り、政府の許可無しで行える。

⑤ ユエ事件等の責任者の処罰と犠牲者に対する援助 事件責任者は犯罪の事実があれば直ちに処罰する。犠牲者の家族には追加見舞金を支給する。

内閣委員会は右事項の実施、特に地方に於ける実施に努力する。若し遺漏あらば委員会に通報されるものとする。

六月十九日 クワン・ドク師の葬儀は政府の要請通り少数関係者の参列で執行された。

二十六日 ニュー政治顧問は共和青年団へコミニユエを送り、カトリック教徒を優遇し仏教徒を迫害するなど云うことは決してない。ユエ事件の爆弾はプラスチックKと云い、専らベトナムのみが使用するものであると説明した。

政府の誠意が見られなかったことを不満として、仏教総会長キエット大僧正はゴ大統領宛に、①共同声明の内容が実施されていらないこと、②共和青年団(一九五六年創立、団員約一六五万)の反仏教徒活動、③コー・ソン・モンと称する政府御用仏教団体の策謀に対する抗議書を送った。

二十七日 ケネディ米大統領は、元米国連大使ヘンリー・キヤボット・ロッチをベトナム駐在米大使に任命することを明らかにした。

三十日 キエット大僧正の書簡に対し、政府は逐一反駁する回答を送つて来た。仏教徒側はこの回答に不満を示し、同日より二日間サイゴンの寺院で断食

を行い、三百五十名の僧がサイゴン国会前で座り込みデモを行った。

七月 八日 もと外相グエン・トン・ナム氏は政府の方針に反対して自殺した。

九日 トー副大統領は仏教総会に書簡を送り、ユエ事件はベトコンの責任と述べた。

十二日 ミン僧正は副大統領へ書簡を送り、政府の不誠実な態度を指摘し、政府が何故ユエ事件を明らかにしないのかと非難した。

十四日 キエット大僧正は大統領に、仏教徒は共同声明の実施を求めるため抗議運動を起さざるを得ない、と強い抗議書を送った。

十六日 サイゴン市で僧百五十名が米大使公邸前で座り込みデモを行い、カントー市でも一千名のデモが行われた。

十七日 サイゴンで百五十名の僧侶デモ隊が警官隊と衝突、多数の逮捕者と共に、双方に十数名の負傷者を出した。

十八日 大統領は事態の悪化を憂慮し、ラジオ放送を通じて誠意を以って解決を計っているので国民は自重するよう呼びかけた。

二十日 政府は十七日デモの逮捕者を釈放し寺院周辺のバリケードを撤去した。

廿二日 ジューフェニ(西アフリカ駐在大使の母)はケネディ大統領に遺書を送った。

廿三日 南越戦傷在郷軍人二百人がサイゴンのサロイ寺院へ反仏教デモを行ったが、政府はデモ責任者を解任し、本事件は

政府と無関係であると言明した。

七月廿八日 仏教徒四千人がサロイ寺院へ押しかけ、寺院側は三十日自殺したクアン・ドク師の追悼会とするからこれに参加するよう要請した。

三十日 サイゴンで五千人、ユエで一万五千人の大規模な仏教徒のデモが行われた。(八月に入り政府側に誠意なしと云う所から仏教徒側は連日政府非難デモを行った。)

八月 四日 青年僧グエン・ヴァン・リー(20才)が焼身自殺。

六日 サイゴンで僧三百六十五名が逮捕された。一方ニューヨークタイムズ紙に投稿したニュー夫人の「バーベキュー」発言は一層事態を複雑化した。

十一日 サイゴンで五千名がデモを行いぎせいをあげた。

十二日 サロイ寺院でサイゴン大学女子学生マイ・ツエット・ファン(18才)が自殺す。

十三日 ユエで少年僧ブイ・フイ・チュオン(17才)が焼身自殺す。

十四日 キエット大僧正は仏教徒側に対し、早まった行動をとらぬよう警告を発した。

十五日 デイユウ・クアン尼僧(27才)が焼身自殺す。

十六日 ユエでテイック・チュ・ディユ老僧(71才)が焼身自殺す。

十七日 ユエ大学総長解任に抗議して同大学教職員四十余名が政府に辞表提出す。

十八日 サロイ寺院で仏教徒一万五千人が座り込みデモを行った。

八月二十日 夜半、軍及警察はサイゴン及びユエの寺院を急襲し僧侶多数を逮捕。大統領は全土に戒厳令を布告、力を以て仏教弾圧にふみ切った。この政府の態度に対し、政府内でもこれを心よしとせず、マウ外相及駐米大使(ニュー夫人の両親)は辞意を表明し、学生はデモを敢行した。

廿三日 駐米南越大使館一等書記官も政府の「独裁的性格」に抗議して辞職した。

廿四日 学校閉鎖令出さる。サイゴンの軍病院で加療中のキエット仏教総会長は事態を收拾するため、テイック・テイエン・ホア(全国僧侶协会会长)・テイック・ニヤット・ミン(全国仏教社会慈善委員会委員長)・テイック・テイエン タム(全国僧侶協会報道僧)・テイック・テイエン・ダオ(全国僧侶教会パ・シエン支部長)に政府との間の諸問題解決の全権を委任した旨を明らかにした。

またキエット大僧正は「現事態に軽率盲動せぬよう」再度ラジオ放送を行った。

廿八日 ゴ大統領は仏教徒新代表と会談し、仏教徒側から次のようなコミニケが発表された。即ち、(A)大量の非法文書の押収された中部地方及サイゴンの寺院だけが目下警察の監視下にあるが、間もなく監視はとけるだろう。(B)六月十六日の共同コミニケを尊重する。(C)新仏教指導者とその将来の行動を保証する僧、尼僧については、これを釈放する。(D)仮収容されている僧・尼僧の面会は許可す

る。(E)ゴ大統領も政府も仏教に對して他宗教と同様敬意をはらっている。

八月廿九日 三ヶ月の休暇許可をうけたマウ外相はサイゴンを空路出発しインドへ向った。

三十日 政府の学校閉鎖令は解除され、小学校から高校迄が開校された。

卅一日 サロイ寺院は十日ぶりに閉鎖令がとかれ仏教徒側へ返還された。

共和青年団が中心となり、サイゴン市内で三万人に上る(実際は五千から一万人と云われる)政府支持デモが行われた。国民会議総選挙は延期する旨政府から発表された。

九月 一日 サロイ寺院は再開されたが、参拝者はわずか数十人にすぎなかった。

クアンチエン兵營に拘留されていた学生全員が釈放された。

四、各国のうごき

(イ) 北ベトナム 事件が起きるや南越政府攻撃の好材料としてこれをとりあげ、五月十五日北越宗教団、同十六日北越ベトナム仏教徒連合協会、同北越軍連絡将校、同二十一日北越平和委員会、同二十五日北越連帯委員会、六月六日北越人民軍總司令官と陸統として声明を発表した。六月十二日ハノイの北越統一仏教協会は故クワン・ドク師追悼法要を行い、南越仏教徒に對する米・ゴの犯罪を強く糾弾した。

また同協会々長はWFB本部にも書簡を送り南越人民の闘争支持を訴えた。七月二十一日ハノイで大集会がもたれ、南越仏教徒弾圧行為を直ちに停止する事を要求する旨決議した。同二十五日ハノイにおいて五万人に上る大規模なデモが行われた。八月二十八日ホー・チ・ミン大統領は南越情勢につき声明を表明した。

(ロ) セイロン ユエ事件に對し仏教団体は国連調査団を現地へ派遣するため国連に提議する訓令を発するようセイロン国連代表マララセケラに要請した。六月十九日政府はドク僧正自殺事件を重視し外務省コミニケを発表した。同二十一日ドク師追悼デモ行進が行われ、同二十九日マラダナで抗議集会。八月二十二日バンダラナイケ首相は在セイロンの印度、ビルマ、タイ、日本等アジア仏教国外交官と会談した。同二十一日グネルドネ国連大使は国連特別総会開催を要請した。

(ハ) ビルマ 六月三日全ビルマ僧侶登録反対行動委員会は、ゴ政府、国連に請願書を送り南越仏教徒闘争支持を表明す。在ラングーンのアキヤブ僧侶連盟、トオ・ツ・ザナ僧侶連盟は同十六日声明を発表。同二十日は信仰自由の保証のため、各国は各自の政府に訴えるようアピールを全世界の仏教団体へ送った。同三十日ラングーンに僧尼五百名がデモを行った。七月二十六日仏教徒のデモ及集會が行われ、同二十九日全ビルマ学生連盟はゴ政権の仏教弾圧と米国介入に抗議、デモ。

(ニ) カンボチャ 六月四日シヤヌーク国家首席はゴ政権の措置を遺憾とする演説を行う。同十三

日同首席は国連事務総長、米、英、仏、印の各首脳にメッセージを送り本事件に介入方を要請した。同二十四日政府は仏教徒迫害ニュースをWFB加盟各国へ通報するようWFBウ・チャントン会長に要請した。八月二十三日政府はローマ法王庁が事件解決に全力をつくすべき旨を声明し、同二十四日シヤヌーク首相はラジオ放送を通じて、南越との政治関係を近く断絶するだろうと述べた。同二十七日政府は南越との政治関係を断絶すると発表した。

(四) ラオス 五月三十一日パテト・ラオ放送は南越仏教徒を支持しその闘争を歓迎すると述べた。同二十八日サバナケット州チェエソンの仏教徒八十名が抗議集会を開いた。パテト・ラオ中央委員会副議長は南越仏教徒の闘争を支持すると声明。七月六日ラオス仏教徒協会はドク僧正の追悼会をジャール平原原カンカイの寺院で行った。

(三) 中華人民共和国 六月二十一日中国仏教協会は北京の雍和宮で南越殉難仏教徒追悼会を開き声明を発表。七月十七日北京で全宗教界代表集合により南越の仏教徒闘争を支持すると表明。八月二十九日毛沢東首席は米、ゴの侵略と圧迫を強く非難した。同三十日北京各界人民一万人参加のもと抗議集会を開催した。

(二) 日本 真宗大谷派定期宗会は六月二十二日抗議電報をゴ大統領、ローマ法王、越南仏教会長に打った。全日本仏教会は六月二十五日WFB本部(在ラン

グーン)に対し、本事件の調査と解決に対する要請書を送り、その写しを国連、WFB各国センターへ送った。日本宗教者平和協議会は北越統一仏教協会に南越仏教徒の抗議運動を支持する旨電報を打った。

大外相は八月二十三日の閣議で南越事件につき報告した。島外務事務次官は同日外務省に駐日南越大使グエン・フイ・ニヤ氏を招き、日本政府は同国の情勢を憂慮している旨伝えた。成田社会党書記長は同日本問題に關して談話を発表し、日本政府は南越の信仰の自由と、民主主義の保障のため積極的打開の手を打つべきであると言明した。

全日本仏教会は同二十三日京都東本願寺で全国宗務総長会議を開き南越政府に抗議すること

を討議決定した。日本宗教者平和協議会は抗議集会を開き、南越政府、米、ソ首相、国連に対し抗議文を送った。日越友好協会、A・A連帯委員会も同様の抗議文を発売した。八月二十七日の閣議で福田防衛庁長官は南越情勢につき報告した。

(一) 全日本仏教会は同二十六日池田総理、ゴ大統領、ロッチ大使に対し南越問題を平和的に解決するよう強い要望書を送った。日本宗教者平和協議会は同二十六日南越大使館にデモを行い、大使に抗議文を提出。ヴェトナム問題仏教徒協議会は九月三日東京神田学士会館ホールで抗議集会を開催。

次長は記者会見で、本件は南越の内政問題の故、政府としてはノイコメントであるが、苦痛の中にある南越仏教徒に心からの同情の念を表したいと言明した。八月二十二日サリット首相はアジア仏教国会議の開催とその重要性を述べた。同日夜財政タイ仏教指導者は南越仏教徒に、物質的援助を与える事を決定し、同仏教協会は南越仏教会へ同情の書簡を送り、国連事務総長、ゴ政府、世界中の仏教団体にタイ仏教徒の今後の措置について通告することを決定した。同二十六日タナット外相はタマサート大学の講演で、南越政府のカゲの実力者(ヘニュー夫人)を強く非難し、セイエロンから参加められていた各国協議会には参加しないつもりであると語った。同二十八日ブリー仏教協会々長は三十一日タイ国仏教協会大会開催の旨をのべ、在タイ中国、印度人仏教団体代表者の出席を求めると語った。

(二) 英国 八月二十二日英外務省スポークスマンはスミス新大使が同日ゴ大統領に信任状を呈出したことを明かにした。

(三) 米 国 八月二十三日国防省は仏教徒事件が起ったことに拘らず、政府の南越に対する基本的政策には変わりはないと言明す。同二十八日在ワシントンの南越人百人が米大統領に書簡を送りゴ大統領の独裁政策を止めさせるよう要請した。九月一日世界教会会議執行委員会はローマン・カトリック系の南越政府が同国仏教徒の宗教的自由を圧迫したことは憂慮にたえないと

声明を發した。九月二日夜ケネディ大統領はテレビ放送を通じて、南越政府の仏教徒弾圧はおろかなことである。共産勢力に勝つためには南越政府が政策を変えねばならないと述べた。

(四) ヴァチカン 八月二十三日付法王庁機関紙は次の通りヴァチカンの立場を明らかにした。即ち、南越事件はカトリックと仏教の闘争ではない。南越仏教総会も政府を非難するだけで教会を非難していない。闘争の性格は政治的であって宗教的でない。南越のカトリックは平和と正義のために行動している。八月三十日法王パウロ六世は、南越情勢を深く憂慮している。南越政府と仏教徒間で相互の友愛の再建に努力することを念願する旨南越国民にメッセージを送った。

(五) ソ 連 八月二十七日のモスクワ放送は、ワシントンが気がつかっているのは、仏教徒の犠牲者でなく、外国援助で行われた犯罪が全世界で非常な反響を呼んだからである。南越の米植民地主義者の足下の大地は燃えている、とはげしく米の南越政策を非難した。

(六) フランス 在パリの南越人学生ら数百名は仏教徒弾圧に抗議してパリ大学附近で二十四時間ハンストを行った。同二十九日ドゴール大統領は、アジアにおける最も重要な地位を占める南越国が本来の目的たる平和、統一、隣接国との親善のため行なう国民的努力の総てにフランスは出来るだけの協力する用意があると言明した。

★全日本仏教会の六月二十五日付及八月二十三日付抗議書に対する国内外的反響

1 国外 フランス・アジア誌社、WFB南ベトナムセンター、WFBマラヤセンター、WFBセランゴールセンター、WFBセランゴールセンター、WFB世界本部、WFB印度トリブラセンター、中国仏教協会②、WFBロスアンゼルスセンター、WFBシンガポールセンター。

2 国内(各団体声明文)

本願寺派仏教学生連合、全日本仏教学生自治連合、京都仏教徒会議、本願寺派ハワイ仏教団、東洋大学学生有志一同、南ベトナム仏教徒弾圧抗議集会、大谷派宗務所、本願寺派三条組、島根県仏

3 その他 全仏に対する要請文書は内外から総計二十通になつている。

財団法人全日本仏教会国際局

南ベトナム事件に署名運動

長崎市仏が全仏へ要請

原爆の都として、名高い長崎市にある長崎市仏教連合会では、今回の南ベトナム事件に異常な関心を示し、去る十月九日声明書を發表し、一万数千名の署名簿を添えて全仏あてに送つて来た。全仏では直ちに局内会議に附議し、近々開催の常務理事会の議を経て、池田首相あてに署名簿をとどけることになつた。

# WFB本部・事務局

## バンコックへ移転す

### ブーン妃殿下が会長代行

全仏ではタイ国仏教会副会長ブーン・P・デイスクル妃殿下の代理として同国仏教会々長ブー・ロチャナブラナンタ氏より九月十一日付書簡を受取ったが、それによると「WFB本部はラングーンよりバンコックに移った」と云う由である。即ちWFBタイセンターは八月廿四日ラングーンのWFB本部へ電文を送り、「WFBセンターの緊急要請、並びにベトナム事件の緊急性に鑑みて、タイ国は副会長ブーン・P・デイスクル妃殿下をWFB本部会長代行とする在ラングーンの本部事務局の変更を引継ぐ用意がある」と述べた。同廿六日ラングーンの本部はタイ国仏教会へ左のように返電して来た。「WFB本部はタイ側の要請を了承する。」これによって、長年ビルマのラングーンに在ったWFB世界本部はタイへ移った。

なおタイ国仏教会ではバンコックで八月三十一日総会を開催し、南ベトナム問題を討議し、①タイ仏教徒は南ベトナム仏教徒に対する迫害を深く遺憾とする。②タイ仏教徒は南ベトナム仏教徒に対する武力行使を非難する。③タイ仏教徒は南ベトナムの仏教徒が他宗教信徒と共に平等な人権を保つことを要求する。④タイ仏教徒は南ベトナム仏教徒に対する武力行使が直ちに全面的に中止されること

を要求する。と云う五議案を採択した。なお総会終了後タイ仏教会長らは記者会見をなし南ベトナム問題に対するタイ仏教会側の態度を明らかにした。

### ベトナム事件に

#### 救援金寄せらる

南ベトナム事件は一応平静を保っているかに見えるが、この事件に対して次の各氏から全仏あてに救援金が送られて来ている。誌上を通じて各位に対し心から御礼申上げます。

- 一、キリスト教徒殿(氏名不詳)
  - 二、鈴木栄明殿(東京都北区赤羽町一〇三〇四)
  - 三、高橋たね殿(栃木県大田原市寺町一九九五の一)
  - 四、京都女子大学生(氏名不詳)
  - 五、大谷喜三郎殿(和歌山県田辺市会津町大師通り)
  - 六、清陀文浄師(和歌山県田辺市南新町海蔵寺)
  - 七、橋本恵一殿(和歌山県田辺市福路町)
- 金五千元也

## 第八回 全仏時局講習会開催

現在、日本の仏教界は国際的にも国内的にもまことに多事多難、解決を迫られている問題が山積しているのである。物質文明偏重の余弊をうけた世界の現状は、いわば、半身不随の病者ともいうべきで、心ある世界の良識は、今や失われた精神への郷愁とその復興におおわらわであるのも、まことに尤もな話でなければならぬ。

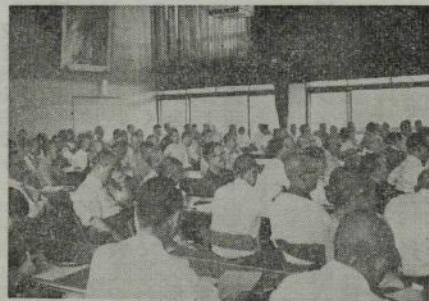
人類にとってこれほど重大な問題も、仔細に観察する時、実は何れも宗教者特に、仏教者がその本来の使命と任務を自覚し、人類救済の悲願に奮い起つ時、自ら水解すべき性質のものであると信ず



(写真) 早島講師の講演

る。しからば、如何にしてわれわれがこの仏教者本来の使命と任務を自覚し、救済の悲願を達成する苦提心を奮い起たせることが出来るか。この課題をいく分でも解明し、その道路の打開のために何ら

かの示唆を与えようとする企図のもとに開催した、本年度第八回時局講習会は、真言宗豊山派宗務庁御当局的全面的な御協力によって、同庁講堂を会場として、九月二、三の両日に亘り各方面からの



(写真) 会場一杯の聴講者

大きな期待のうちに開催された。参加者は、全国各地の教界の第一線に活躍する各宗派のベテラン二百名であった。

人類の窮極の願いを他処に刻々緊張の度を高めつつある国際的危機と、経済偏重による道徳率の低下に苦しむ国内情勢の上に立って、社会にとつても個人にとつても最も重大な失なわれた問題を再確認し、広く社会一般に訴えることを目的として協議研修された今講習会は、さすがに講師各位の講義内容、又聴講者諸師の終始一貫した積極的熱意ともに、正に近來まれに見る充実したものであった。各講師共、夫々専門の分野から、微に入り細に穿つた蘊蓄は各々異なつたものであるが、結論するところは、何れも現代の仏教が、こ

の社会に貢献し国家の要請に応え、人類の福祉と世界の平和に寄与する唯一つ最大の道は、先づ、われわれ仏教者が自らの任務を率先垂範する以外にない。先づ自らが身をもって社会大衆に範を示すこと以外にない。そこに仏教者本位の姿があり、使命実現の道がある。この仏教者本来の姿に目覚め、これを実践せよということ、何れも聴衆に深い肝銘と共感を与え、聴衆も又これに応えて仏教者の自覚を誓いあつた。

又講習会においては、特に目下の急務であり仏教者の黙視することの出来ない問題として、南ヴェトナム仏教徒弾圧に対する緊急対策を協議したのであるが、これは、満場一致の声明文として発表を見た。

幸に、実り多く充実したこの講習会を一つの布石として着実且つ堂々たる前進を、仏教者自身が深く心に期すべきであると思ふ。因に、今講習会の講師とその演題とは次の通りである。

### 記

- 仏教人口の組織化 東大助教授 文 博、早島鏡正師
  - 現下の国際情勢と仏教運動 文 博 松本徳明師
  - 仏教寺院の直面せる法律的諸問題 について 大正大講師大塚弘師
  - 社会教育と寺院活動 早大教授、伊藤道機
  - 人間性の理解と仏教 立正大教授 文 博、久保正文師
- なお、各講師の御講演内容については、別に紀要として出版される予定である。

△ △ △

# WFBロスセンターが

## ローマ法皇に抗議電報

### 南ベトナム仏教徒迫害の中止を

WFBロスセンターであるユニバーサル・ブッディスト・フェローシップの緊急理事会は九月三十日ロサンゼルスで開かれた次のような電文を、ヴァチカンのローマ法皇パウロ六世に送ることを決定した。

世界の平和と兄弟愛を深めるため尽力されている貴下の御努力に敬意を表し、その御成功を心から祈ります。

南ベトナム大司教タック大僧正や彼の兄弟達、即ち独裁者である大統領、それにカトリックの特殊部隊や秘密警察に対し仏教徒に対して成されている血なまぐさい迫害を止め、彼等をしてローマンカトリックと同様に文化的にも宗教的にも自由が与えられるよう、圧力政治の徹廃のための示唆を与えて下さい。

貴下の敏速なる御処置が必らずや世界の悲劇を未然に防ぎ、貴下の御意志が二十世紀を歩む南ベトナムのカトリック教会栄光ある前途を暗示するであろうことを期待いたします。

一九六三年九月三十日

ユニバーサル・ブッディスト・フェローシップ会長  
ハロルド・H・ブリンプ  
事務局長  
ダグラス・フライツィア

なおこのユニバーサル・ブッディスト・フェローシップは一九五一年にカリフォルニア州が一体と

なつて組織された仏教団体で、仏教宣布のため活躍しているが会員は白人仏教徒が多数を占めている由である。

なおハワイ仏教徒連盟でもこのほど南ベトナム事件に関してケネディ大統領及び国連に事件の平和的解決を願う要請書を送った。

### 愛知県仏が十万人署名運動

#### 留学僧に救援金

愛知県仏教会(会長 椎尾弁匠師)では、南ベトナム事件解決署名運動として県下仏教徒の熱意を集めて一ヶ寺二十名の署名を行い、締計十万人署名の運動を行っているが、来る七日に宗教施設研修会を行うため上京する機会に、それら署名簿や要請文書、依頼文、激励文を、内閣、国会、南ベトナム大使館、全仏などに提出することになった。

なお、本国からの送金が途絶えている在日南越仏教徒留学生に対する救援金も同様募金しており、十月八日東京芝の増上寺において椎尾泉仏会長から留学生に手渡されることになっている。なお因みに在日南越留学僧のマンダラ尼(駒沢大学)、ティッチ・マンザク比丘(東洋大学院)は本国よりの送金が絶たれているだけに非常に苦しい日々を送っている。

### 故クワン・ドク師の追悼会

#### 田丸輪番導師で執行

九月二十五日午後二時から東京築地本願寺講堂において、さきの南ベトナム事件で、焼身自殺をとげたティッチ・クワン・ドク老師の追悼会が、南ベトナム問題日本仏教徒協議会の主催で厳粛に執行された。

法要は築地別院輪番田丸道忍師導師により営まれ、終つてドク大僧正と生前に親交のあった久保田正文氏(立正大学教授)の「クワン・ドク師を偲びて」と題する講話をきいた。当日は悪天候にもかかわらず約百名が参列した。

なお、同協議会では南ベトナム仏教徒救援金として百万円を目標に募金を呼びかけており、近く三名の代表がツイゴンを赴れるとのことである。救援金は今後も東京都千代田区神田鎌倉町七、南ベトナム問題日本仏教徒協議会あてに送りたいと云っている。

### 南ベトナム事件に要請書

#### 宗連がローマ法皇に提出

核兵器禁止平和使節団は九月十四日夜空路羽田を出発したが、日本宗教連盟(理事長古屋新氏)では南ベトナム問題についてローマ法皇の配慮を願う要請文を代表団に託した。

なおこの要請文は平和使節団の松下正寿代表に手渡された。

核禁使節団一行はこのほどヴァチカンでローマ法皇と会見し、使節団松下団長が「平和提唱」(英文)

を手渡し、また日宗連の要請文書も手交したが、法皇は『あらゆる努力をおしまない』ことを確認したと云われる。

### 東京仏教団役員改選

#### 新理事長に來馬道断師

東京仏教団では、八月二十六日に理事会を開催し、規約の一部改正を行い、ついで役員改選を行った結果、來馬道断師(東京巢鴨高岩寺住職)を新理事長に選出した。なお前理事長の長岡慶信師は同団顧問に推挙された。主なる新役員は次のとおり。理事長來馬道断、常務理事松浦勝道、麻布照海、杉本良智、栗本俊道、山口秀孝、沖風亀、小熊寛澄、林静寛、阿部竜伝、川勝宗賢、監事秦慧玉、山中浩文、星野純義の諸師。なお、九月十二日開催の理事会において、新事務局局長に神野真一師(曹洞宗)が決定された。また、事務局は來馬理事長宅(東京巢鴨高岩寺内)におかれることになった。

## 新刊紹介

全仏時局対策協議会は昨年未発足以來着々と所期の目的を達成して来たが、既報のとおり一応目的を遂行したので、その運動は全仏へくり入られられたが、このほど同協議会が編集した刊行物が出版さ

れることになった。全仏ではこれら時局に適應した刊行物が広く全国仏教徒に参考となることをのぞんでいる。

### 一、創価学会

#### の批判的解明

本書は、創価学会の実態調査に基づいて、学会の現況とその教義を解剖し、厳しく批判している。同信各位に御一読して頂くことにより、学会に対する認識を深めると共に学会に対するあらゆる不安は一掃されるであろう。

担当者 竹中 信常師

安居 香山師

(定価一部二百円 送料共)

### 二、寺院の新しい

#### 社会教育活動

現下の仏教界寺院の布教化、社会活動面の実体調査に基づき近代社会における寺院活動のポイントを指摘している。

担当者 伊藤 道機師

(定価一部百四十円送料共)

いづれも御申込みは全仏組織局宛

仏教界ニュース

◎浄土宗大本山の東京芝の増上寺では境内に四五〇〇台収容出来る有料駐車場をつくることになり工事にとりかかっている。これは地元警察署を通じての要請と、その建設される境内地域が雑草のため保健所から環境衛生上からしばしば注意されていたためともいわれている。

◎浄土真宗本願寺派ではこのほど現在の宗務機構が、教化の三大路線(末寺振興、人材養成、社会教化)についての事務を強力に推進を進めるためには、各部門間の事務の連絡を密にし調整をはかる必要があるとして、宗務推進本部を設けることにした。推進本部は、①末寺振興対策推進本部②対参対策推進本部③研修対策推進本部④都市開教推進本部の四本から成り、本部ごとに本部会議をもつて本部としての意志統一の最終機関とすることになっており、本部会議で決定した事項は総局会議に付議されることになっている。

◎本門仏立宗では、去る六月に第一回青壮年教務錬成道場を行なったが、このほど青壮年教務会を結成して、教務局では同会結成に当たって、①出家、得度の反省②知恩報徳の意味③いかにして信者の手本になるか、の三テーマを掲げてその推進をはかっている。またこうした教団活動の拠点として、仏立会館を建設することにきめた。同会館には宗務本庁、教学院、会議室、宿泊室、資料室、研究室等が設けられる予定になっている。

◎日蓮宗布教家連盟では青年僧を育成する意味で来たる十一月池上本門寺で関東布教コンクールを開くことになった。日蓮宗青年会等から四十才までの青年僧代表各一名が出場する。

◎天台宗を離脱して単立寺院になろうと京都府に離脱に係る規則変更の承認を申請していた青蓮院がこのほど天台宗との間に、離脱問題を白紙にかえし、天台宗に復帰する、との話し合いがつき、八月四日正式に天台宗々務庁へ復帰する旨届けた。

◎東本願寺では、宗祖の七〇〇回遠忌記念事業の一つとしてすすめきた親鸞の「教行信証」六巻の英訳を、このほど鈴木大拙博士によつて完訳された。この翻訳は五年四月月にわたった。

◎真宗大谷派では同朋会運動の一年間の評価と反省に立つて、宗務機構全体をいっしょに同朋会推進本部ともいうべきものとして、同運動を推進するため、従来の職能部門制組織(ハンコ行政の官僚組織)を改めて、新しい企業体の経営組織である事業部制方式を建前として採用することにした。

家庭の平和は健康から

一日の特急ドックご案内

昔から医療は、仁術といつて、お医者からの授かりのみだに思っていた。だから私たちの身体について五十幾つかの臨床検査をしてもらいたいと思つても、病院はお医者本位にできているから一々都合を伺っているうちに一ヶ月や二ヶ月は飛んでしまう。事実上

私たちの身体のオーバーホールは出来なかつた。だが、医療は医者のためにあることを確信し、医療を医者の立場で割切つて考えることを主張する私たちは、これを黙っているわけにいかない。

それで昭和二十九年、国立東京第一病院で無理にお願ひして、人間ドック二床をつくつてもらい、その患者の管理を私たちが引受け、その人間ドックの初まりだが、今ではもう、これが出来ないが近代病院といえないので、全国津々浦々まで普及した。結構なことである。だが私たちは、ドックの元祖としての自覚と責務から、この六日間のドックを一日間でどこまでできるか実験してみることにした。私たちは銀座東一丁目保健同人診療所をひらいているので、特に毎週土曜日を選んでこの春から店開きしたが、六日間ドックの八割方の検査が出来た。もちろん六日ドックには六日ドックのよさもあり、真似の出来ない点もあるけれど、医者も看護婦も受診者もみんなが忙しい目をすれば、ここまで縮めることが出来るということがわかつて嬉しかった。土曜を選んだのは、半ドンのお勧め先では朝三時を犠牲にするだけで済みお客さんがとても喜んで下さるから。希望者が五人揃えば、日曜にもやつてゐる。女性方が組んで申込んで来たり、会社の幹部が揃つて見えて、お互いに誘ひ合せる人が殖えて賑か、且つ楽しそうである。これを見た全日仏傘下の同信の方々が、誘ひ合せて(いや或はお一人でも)御利用いただければ嬉しい。時間は土曜(又は日曜)の朝九時から始めて夕四時

ごろには終る。但し胃ガンの検査のため三日前の水曜日からは、普通の食事をやめてもらつて、潜血食という特別食をたべてもらう。その代り土曜のお昼御飯は精進落ちして、おいしい肉料理を差上げる。一つのドック気分である。夕方ドックを終えてさばさばとした気持は、ほんとお任せした気持に通ずるものがある。料金は一万九千円(女子は検査がふえて二万一千円)街のドックみたく、一人のお医者が一遮千里に片づけるような真似はせず、ガン、循環器、眼底、婦人科などそれぞれに専門医の来診を求めて、診断の權威を高めている。私たちがいささか誇りにしているのは、土曜、日曜という他人様が休みた日に受診者の便宜を考えて敢てドックをひらいていること、これは権利思想のやましまし一般病院では、お医者も看護婦も、土日の勤務なんて考えてもくれないから、当分私たちの真似は出来まいということだ。おかげで開設いらい繁昌して、嬉しい悲鳴をあげている。それからもう一つ強調したいことは名医・専門医七十名を顧問にお願ひし、お互いの病状に忠告して、先生方に然るべき謝礼で特別診療に乗つていただける制度をつくつてゐる。名医、専門医に、合理的な方法で診療してもらえると、いうことは、学園に関係のない私たちだからお世話できることで、皆さんから喜んでいただいている。(但し会員制度にしている)人間ドックにはいつて、何か異状がみつければ、いざと言えはここの七十名の名医専門医が控えていて下さる。こんな豪華な医療の饗宴が、ほか

にあらうか。身体の異状を素人の自分ひとりでもやかく取りこし苦勞している暇に、ドックの頼船にお乗りなさい。事実を眼をふさがないで、事実として静かに受けとつていきたい。七十名の顧問の先生方は私たちを見守つて下さる。パンフレット御希望の方は左記へ。どうぞ、いつでもお電話下さい。

(財団法人保健同人診療所 理事長 大渡 順二)  
(東京都中央区銀座東一丁目八、保健同人診療所の電話は五六一局〇二一六番)

横浜 渡辺越雲師の快挙

横浜市港北区岸根町曹洞宗貴雲寺住職渡辺越雲師(66)は去る九月六日神奈川県仏教会(会長高橋隆天師)に対し金参拾万円を特志寄贈せられた。同師は六日に開かれた常務理事会に同席せられ、出席の常務理事一同に多大の感銘を与えた。

あとがき

△全仏も人事改選で会長以下上届の顔ぶれが一新された。各位の手腕に期待するところ大である。  
△従来のような低頓した後向き姿勢から積極的な前向き姿勢をとることこそ全仏は勿論のこと日本仏教界を前進させる要諦である。  
△墓地、農地など宗教法人権益擁護の問題は山積している。これらに本気で対処してゆくには矢張り財源であり根性ある人であらう△同信各位の御支援を切望してやまない。(R生)